

# 土井ヶ浜南遺跡第4次発掘調査出土の動物遺存体

沖田 絵麻

## はじめに

土井ヶ浜南遺跡は下関市豊北町大字神田上の江尻下地区に所在する。国指定史跡であり弥生時代前期～中期の埋葬遺跡として著名な土井ヶ浜遺跡から南に約300mほどの地点に位置し、堂山（標高134m）から北に派生する舌状丘陵に立地する。土井ヶ浜南遺跡第4次発掘調査は、この舌状丘陵の先端にあたる地点を対象として、平成15年度に土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムによっておこなわれた。調査の結果、弥生時代、古墳時代、中世の遺構・遺物が確認された。動物遺存体は中世（13～14世紀）の層からの出土である。ここでは、これらの動物遺存体の分析結果を報告し、中世の動物利用について若干の考察を加えたい。

## 1. 資料と方法

資料は2点である。いずれも中世の遺物包含層出土で、13～14世紀頃と推定される資料である。2点とも保存状態が悪く、土から露出させると乾燥に従って崩れる状態であった。そのため、現地でも出土状況等を確認した後、周囲の土壌ごとブロック状に切り取り採取した。

持ち帰った資料は、骨と土壌の分離が困難と判断されたため、骨の表面のみクリーニングをおこない、パラロイドB72のアセトン溶液を染み込ませることで土壌ごと固める処理をおこなった。固定後、現生骨格標本および骨格図譜類を基に種と部位の同定をおこない、ノギスを用いて計測をおこなった。

## 2. 出土状況と観察所見

出土した動物の種類を表1に、同定結果一覧を表2に示す。出土したのは哺乳綱のイノシシ類とウシである。

### (1) No. 1

イノシシ類の下顎骨である。調査区西側に検出された落ち込みの斜面で検出した。

出土したのは、左右の切歯歯槽部分である。少なくとも左右の第1切歯が植立するとみられるが、非常に状態が悪い。表面観察・大きさや年齢の推定・計測のいずれもおこなえないため、詳細は不明

表1 出土した動物

脊椎動物門	VERTEBRATA
哺乳綱	Mammalia
ウシ目	Artiodactyla
イノシシ科	Suidae
イノシシ類	<i>Sus</i> sp. indet.
ウシ科	Bovidae
ウシ	<i>Bos taurus</i>

表2 土井ヶ浜南遺跡（4次）出土動物遺存体一覧

No.	出土層・遺構	分類	部位	L/R	部分	カットマーク	被熱	計測値 (mm)	備考
1	中世包含層	哺乳綱 イノシシ類	下顎骨	L+R	切歯歯槽部	不明	なし		
2	SK 02 1層	哺乳綱 ウシ	寛骨	L+R	ほぼ完全	なし	なし	GBA:215 ±, SBI:142.6 ±, LFO:107.40(L), 103.05(R), LA:67.20(L)	小型牛、成獣。残存長 270 ± mm

L: 左側 R: 右側 計測は Drisch (1976) に従う

である。

## (2) No. 2

### a. 出土部位

種類はウシ、部位は骨盤結合で結ばれた左右寛骨である。寛骨以外の骨は出土していない。寛骨はほぼ完全だが、左右とも頭側の腸骨翼は未確認であり、欠損していた可能性もある。また、坐骨の尾側先端は土層断面観察用ベルトにかかったため発掘中に削られてしまっている。雌雄は不明である。

### b. 出土状況 (図2)

調査区北東部で検出された土坑SK02から出土した。SK02は東西に軸をとる平面楕円形を呈する土坑で、規模は長径約250cm×短径140cm、深さ約15cmである。土坑内には完形の坏と皿を含む土師器が散在する。ウシ寛骨は土坑東寄り出土した。寛骨は腹面を下にし、床面から約6cm浮いた状態であった。水平になるように据え置かれた印象を受ける。

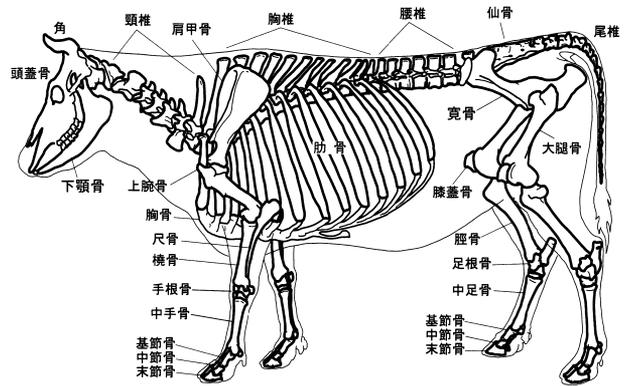


図1 骨格各部の名称 (図はウシ)

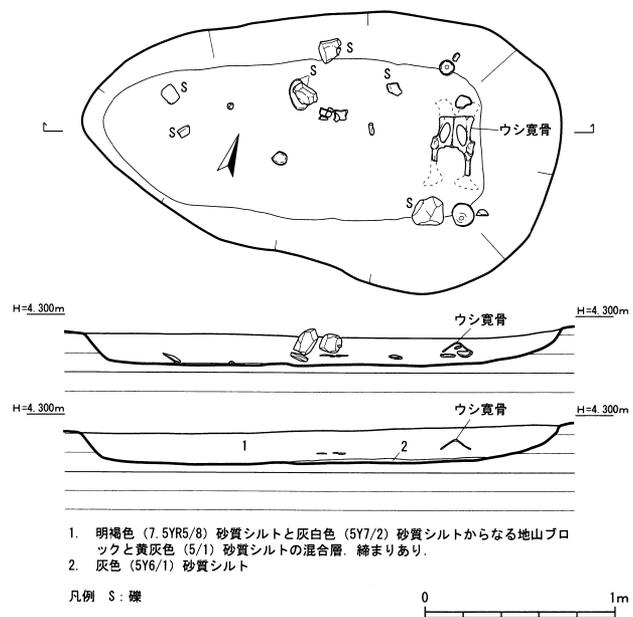


図2 SK02 ウシ寛骨出土状況実測図 (S=1/40)

## 3. 考察—SK02出土のウシについて—

### (1) SK02出土ウシの形質

SK02出土ウシ寛骨は、関節の骨化が終了した成獣のものである。ノギスによる計測をおこなった結果、寛骨臼部分の寛骨幅 (GBA) が215mm前後、坐骨部分の寛骨幅 (SBI) が142.6mm前後であった。西中川らの研究 (西中川ほか, 1988) を参考にすると、これは口之島牛雌や見島牛雌<sup>1)</sup>と近い値である。口之島牛雌の体高が $109.8 \pm 3.7$  cm (n=8)、見島牛雌の体高が $114.9 \pm 2.9$  cm (n=137) であることから、SK02出土ウシもこれらに類する大きさの小型牛であったと考えられる。西中川ら (西中川ほか, 1991) によると、土井ヶ浜遺跡出土のウシ (中世以降か) の推定体高は $109.31 \pm 11.01$  cm、周防国府跡出土ウシ (古代) の推定体高は117.42 cmであり、山口県の古代～中世のウシは体高が120cmに満たない小型牛が主流であったとみられる。

### (2) SK02出土ウシ寛骨のもつ意味

SK02出土ウシ寛骨は、①寛骨に関節する仙骨・大腿骨などは全く見られない、②欠損部分が少なくほぼ完全な寛骨である、③水平に据えられたような出土状況を示す、などの点から、意図的に埋められたと推察される。①からは、ウシの埋葬跡ではないことが明らかである。また、関節する他の

骨から寛骨のみを選択して取り分けたことがうかがえるが、それに伴う解体痕跡が見られないことから、前もって晒した骨を埋めた可能性も考えられる。

S K 02 の特徴としては、長径 250 cm と大きめの楕円形を呈し、埋土は床面を覆う薄いシルト層をのぞけば地山ブロックを含む単層であり、完形の土師器の皿や坏が含まれることが挙げられる。土師器は副葬品と捉えれば、土葬墓の可能性が考えられる。

S K 02 が土葬墓であれば、ウシ寛骨も副葬品である可能性がある。出土状況を見ると、ウシ寛骨は東西に長い土坑の東寄りへ出土しており、人間を埋葬するスペースは十分確保されている。そこで、ウシの骨を伴う墓の類例を調べたところ、神奈川県鎌倉市の長谷小路南遺跡（斉木ほか編，1992）に 1 例あることがわかった。この事例は中世以前とされるが詳細は不明である。土坑墓 4 とされる墓がそれであり、被葬者の頭部～左肩部の下にウシの肩甲骨が敷かれる（図 3）。長谷小路南遺跡の南側一帯は前浜とよばれ、一種の自由地域として様々な職業集団が居住すると共に、古代～中世においての葬地でもあった（斉木ほか，前掲）。

改めて土井ヶ浜遺跡・土井ヶ浜南遺跡を含む地区一帯に目を向けると、規模や性格の差こそあるが、長谷小路南遺跡と同様に、土井ヶ浜に面して砂浜が広がる「浜」地形であり、中世墓が検出されることから中世においても葬域としての土地利用が見られる。こうした地理的条件を備えた中世墓は下関市の吉母浜遺跡など県内にも類例があるが、アワビ類の殻を伴う事例はあるものの、現時点では動物骨を伴う事例は知られていない<sup>2)</sup>。地域や時代が異なるため一概に比較することはできないが、長谷小路南遺跡と土井ヶ浜南遺跡には葬制に関するウシの役割に共通点があるのかもしれない。

先述の吉母浜遺跡は 15 世紀を中心とする中世の集団埋葬跡であるが、ウシやウマなど家畜の遺存体も多数確認されている。ウシやウマは全身の様々な部位が出土し、解体痕跡がみられず破損率が低いことなどから埋葬個体に由来する可能性がある<sup>3)</sup>。また、土井ヶ浜遺跡第 6 次調査でもウシの埋葬跡が確認されている。さらに、土井ヶ浜南遺跡では仔ウマの埋葬跡と考えられる遺構がみついている<sup>4)</sup>。このような事例からは、響灘沿岸のいくつかの「浜」は、人間の墓域としてだけでなく家畜の遺体を葬る場としても認識されていた可能性が示唆される。そのような場所では、死者の墓坑を掘る際に、以前に埋葬されていた家畜の遺体を掘り出してしまうなど、ウシやウマの骨を比較的容易に入手できたと予想される。これらが葬制においてどのような意味を持っていたのか、今後の類例の増加を待って再考したい課題である。

## おわりに

S K 02 については同様の類例がないため不明な点が多く、残念ながら深く掘り下げることはできなかった。しかし、当時の土井ヶ浜南遺跡の社会における、ウシをはじめとする家畜との深い関わりが素地となっ

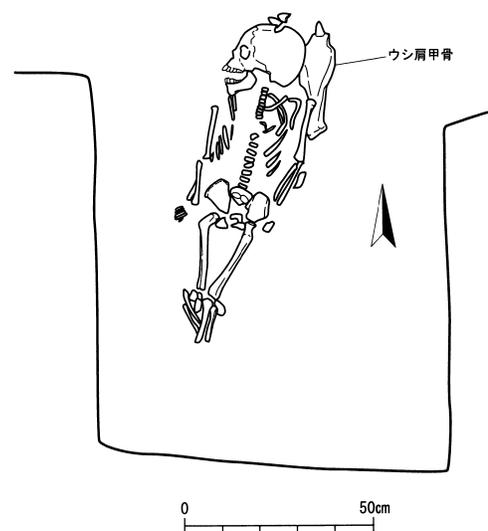


図 3 長谷小路南遺跡 4 号墓実測図  
(斉木ほか編，1992 よりトレース、一部改変)

ていることは明らかであろう。本遺跡では、先述のように仔ウマの埋葬跡と考えられる遺構が見つかっており、牛馬の飼育繁殖などに関わる施設が存在した可能性も十分に考えられる遺跡である。土井ヶ浜南遺跡の中世における人と動物との関わり方は非常に興味深く、今後の調査事例の増加に期待したい。

## 謝辞

本稿を執筆するにあたり、金子浩昌先生、奈良文化財研究所の松井 章先生、岡山理科大学総合情報学部の富岡直人先生、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸館長・吉留 徹氏・小林善也氏には御助言・御教示を頂いた。末筆ながら感謝申し上げます。

## 註)

- 1) 現生の牛。口之島牛は鹿児島県口之島に野生状態で生息する小型牛である。見島牛は山口県萩市の見島で飼育されている小型牛である。これらは現代の和牛の元祖とされ、西中川らの研究でも古い形質を残した純粋な在来牛であるとされ、遺跡出土ウシ遺存体の大きさを測る目安となっている。
- 2) ただし、吉母浜遺跡の土坑墓LG 20には被葬者の成年女性と共にイヌ1頭が埋められていた。これは随葬と考えられており、ウシ骨の場合とは意味が異なる可能性がある。
- 3) 近年の下関市教育委員会による試掘調査出土資料の観察から得た、筆者個人の知見である。
- 4) 「広田遺跡」として調査した地区である。詳細は沖田(2005)で報告した。

## 参考文献

- Driesch, A. 1976 "A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites." Peabody Museum Bulletin 1, Museum of Archaeology, Harvard University.
- 久保和士 1999 「動物と人間の考古学」, 真陽社.
- 久保和士・松井 章 1999 家畜その2—ウマ・ウシ。「考古学と自然科学2 考古学と動物学」同成社:169-208.
- 松井 章 1997 考古学からみた動物利用。「部落解放なら8」:2-31.
- 西中川 駿ほか 1989 「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の起源、系統に関する研究—とくに日本在来種との比較—」, 昭和63年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書.
- 西中川 駿ほか 1991 「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」, 平成2年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書.
- 沖田絵麻 2005 山口県豊北町寺ヶ浴遺跡・広田遺跡出土の動物遺存体。「寺ヶ浴遺跡 広田遺跡 磯地遺跡」下関市教育委員会;土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム:145-153.
- 斉木秀雄ほか編 1992 「長谷小路南遺跡」, 長谷小路南遺跡発掘調査団.
- 下関市教育委員会 1985 「吉母浜遺跡」



写真 1

SK02 遺物出土状況（南から）



写真 2

SK02 ウシ寛骨出土状況（南から）

---

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

## 研究紀要

第3号

発行年月日 2008年3月31日  
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム  
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8  
TEL 083-788-1841・1842

印刷 アリフク印刷株式会社  
〒759-5101 山口県下関市豊北町栗野 4896-8  
TEL 083-785-0311  
FAX 083-785-0312

---